

## 図書館の資料提供

松岡 要（日本図書館協会・元事務局長）

自治体が設置する「公の施設」は多種多様ですが、いずれにおいても「資料」を抜きにしたサービスはありません。スポーツ施設が利用者のスキルアップに資するための資料コーナーなどを用意したり、子どもや高齢者、女性などを対象とする施設は、対象の利用者への資料提供は大事なサービスとしてあります。資料、情報は生活、生業、学業などにとって不可欠なものですから当然です。

そのなかにあつて図書館は「求められた資料、情報を確実に提供することを専一」としております。図書館は博物館とともにコンテンツを所蔵し、それを提供することを機能としており、単なる施設ではなく機関ともいふべきと思います（文部科学省委嘱『図書館・博物館等への指定管理者制度導入に関する調査研究報告書』2010.3 参照）。ここでいう「情報」ですが、ネット情報だけではなく、図書、雑誌などの資料にある情報、記述されていることがらなどを指します。図書館学では「資料論」ではなく、「情報資源論」としてはいますが、資料は情報が詰まった資源と捉えています。資料提供とはその資料の記述内容＝情報の提供なのです。

図書館利用者は、いわゆる読書だけでなく、生活、生業、学業で必要とする情報を得るために来館します。それに応えるため図書館は、既成のコンピュータ仕様の書誌データにそれぞれの図書館の方針に基づいた分類記号とともに、必要な分類、件名、キーワード、注記などを付加します。利用者の関心事などが記述されているとき、それをデータに入れ込むのです。小説や随筆のほか、写真集、美術集な

どに、例えば地元に関わる記述や写真、絵画が掲載されているときは、それも加えるのです。著者が意図していたことを超えた検索、利用も可能としますし、レファレンスの際必要になります。

利用者が求める資料、情報には、地域の問題があります。私の地元では今、低空飛行・増便の羽田空港、幹線道路建設の問題に直面しています。道路問題では図書館廃館もからんでいます。これらについての資料提供を図書館に求めたのですが、当局サイドの説明会配布資料も、反対運動の資料も所蔵しておりません。自治体広報や議会議事録などの行政資料にも記述、掲載記事がありますが、それもまとめておらず、ましてや検索もできません。様々な立場からの資料に接し、地元の問題を考えることを妨げていると言えます。関係資料の多くは一般に刊行されたものは少なく、入手には特別の努力が求められます。地域の問題は政治が絡むことが多いので、当局から自立してサービスする運営も求められます。

図書館は利用者の関心を捉えることに努め、それに沿うように選書すること、将来の利用も見据えたコレクション形成が重要です。図書館が、ある種の資料は提供しない、という「事件」が時々ありますが、それは「検閲」につながる図書館の自殺行為です。資料要求に徹底的に応える、利用者には奉仕することが図書館の役割です。

所蔵資料で応えられない場合は他の自治体の図書館などから借りて提供することになります。全国では年間 200 万件を超える資料が相互貸借されてい

ますが、このように他の自治体と日常的に連携していることは他の「公の施設」ではあまり見られない特質ともいべき業務です。その進展から、ブロック単位で雑誌の分担保存などを進めている事例もあります。図書館資料の蓄積基盤の整備にもなっているともいえます。

ところが最近、「貸し渋り」や書架スペースの邪魔になっているとして大量に廃棄していることを見聞します。周辺自治体図書館の所蔵確認などの調整を図ったうえではないようです。コレクション形成を崩すことであり、容認すべきではありません。

さらに加えます。1998年に文部省の生涯学習審議会図書館専門委員会は、“無数の情報の中から真に必要な情報を選択・整理して自分のものとする能力、「情報活用能力」を身につけることが求められている。子どもに対する有害情報の影響が議論され

ているが、子ども自身に情報の適切な選択の仕方を学習する機会を与える必要もあろう。情報活用能力の修得する機会を得にくい高齢者や女性に対する支援に特に配慮すべきと考えられる。”と、図書館および司書の役割を提起しました。資料、情報が集まった図書館でこそ発揮できる機能です。

しかし図書館機能の拡充は極めて困難、事業の後退状況にあります。その主要な要因は政府、自治体一体となった「行革」にあります。住民から求められた資料、情報を確実に提供することをあいまいにする管理運営の外部化、何よりもコレクションを駆使し、資料、情報を探し出すことができる職員集団の形成を崩す人事管理が顕著になっています。これに切り結んだ主張と図書館機能を発揚させる取り組みが欠かせないと痛感しています。

## まちだ未来の会 学習会 参加報告

庄司 洋子

### 第2回学習会

#### 市の「施設再編計画」を読み解く！

6月24日(土)、わくわくプラザ町田3階講習室で、町田市が意見募集していた「これからの公共施設のありかた」についての学習会が開かれました。6月15日付の「広報まちだ」を見ても、内容がよく分からない問題についてです。

始めに、市長・コンサルタント・市民A・市民Bに扮する4名が登場して、ロールプレイング(役割演技法とも呼ばれる研修の一手法)が行われました。この中で、今町田市が直面する財政難(市長)とその対策(コンサルタント)...今後5年間、4つの核(町田駅、多摩境駅、南町田駅、鶴川駅)を拠点として、整備・施設の集約をする計画を進めていくことが説明され、市民A、Bがいろいろと質問しました。

「2016年度までの計画では、図書館を6館から8館に増やすなど、生涯教育の充実を目指すものだったが、今度の計画では一転して、それを減らし、文学館、博物館もなくす、集会施設も減らすということです。危惧を覚えます。」「まちが新しくステキになったらいいけれど、今回の計画には新しさがなく、集約多機能化で、地域の個性がなくなっている。もっと市民の意見が知りたい。町田の人が考えた方が

いい。」「スポーツも大事だが、文化も大事。鶴川図書館をなくす計画がでているが、鶴川団地の自治会では、建物の建て替えを計画中で、図書館をもっと広く充実させる計画をたてている。このような市民の知恵、意見を入れてほしい。」などなど。

この後、5つのテーブルで行われたグループ討議では、さまざまな立場の市民41人が意見を述べあい、新鮮な時間となりました。次いで、それぞれのテーブルごとに出た意見を発表して共有したわけですが、そのなかで、「4つの核の理由づけがわからない。それぞれ性格が違う」「交通機関を整備して15分以内で行けるようにするって可能なのか?」「町田の財政は本当に悪いのか。配分の問題である。データの出し方にも問題」「減び行く町田、きらめく町田という2者選択はおかしい」「いい町にすれば、人口は増える」「市民の声を聞くことができてない」「市民のほうも力をつけていかなければならない」など根本的な課題が浮き彫りになりました。今後の取り組みとして、9月の市議会に向けて請願を提出することが承認されました。参加者のなかからは、12月に博物館がなくなるという発表があった時、存続を願って、周辺の自治会を中心に1か月で8千名の署名を集め、請願をしたという報告がありました。

まちだ未来の会は、これから、多様な人に呼びかけ、市民側の計画(対案)を出していきたいと確認して閉会となりました。

市民の文化への意思を信じます。

### 第3回学習会

市の「施設再編計画」にもの申す！

#### —町田の未来を考える市民、大集合—

7月29日(土)、町田市民フォーラム4階第2学習室で開かれました。冒頭、第2回学習会で決定した9月議会に向けての請願について確認し、「市民に根ざした『公共施設再編計画』の策定を求める請願」で1万人を目標とした署名を集めることを決定しました。「鶴川図書館を鶴川団地センター商店街の中に存続させることを求める請願」の署名活動は、自治会・町内会等によりすでに開始されたこと、市民文学館についても、原町田で請願の準備がなされていることも報告され、署名の協力が要請されました。

次に、スピーチシャワーという試みが行われ、いろ

いろな団体・個人が、再編計画に対する考え等を5分間ずつスピーチしました。町田の図書館活動をすすめる会、横浜里山研究所、柿の木文庫、まちだ雑学大学、原町田4丁目第二町内会、町田連句を楽しむ会、まちだ史考会、町田の学校図書館を考える会、建築家、革新町田市民の会、まちだ市民大学市民プログラム委員、小島資料館など12人が発言しました。

その後、スピーカーを囲んで5つのテーブルで熱のこもった討議が続きました。テーブル討議から、スポーツ系の人々も巻き込んで話し合うことや、若者が住み続けたいくなる町づくりを考える、郊外の良さを大切にする、50年、100年継続する文化施設を考えようなど、今後の方向が語られました。(会員)

※ まちだ未来の会は、町田市の生涯学習や文化行政に関心を寄せる市民の会です。詳しくは、当会のホームページをご参照ください。

<https://machida-library.jimdo.com/>

## ある利用者からの手紙

守谷 信二

先日、図書館員時代の古い資料を整理していたら、30年以上も前にある利用者から館に届いた手紙が出てきた。ある地域館(当時は「分館」と呼ばれていた)が行ったレファレンス回答への礼状である。なぜ私の手元にあるのか定かではないが、その内容が図書館員冥利に尽きるものだったので、処分せずに仕舞っておいたのだろう。

お手紙の主がご健在かどうかわからないが、お名前や館名を伏せたうえで、全文をここにご紹介することをお許しください。

「毎度お世話になっております。特に今回は、柳田民俗学の『常民』に関する諸論文についてのリクエストに対し、貴分館が示して下さい、なみなみならぬご配慮、ご尽力に感謝の言葉もございません。／古雑誌にのった小論文をどのような手立てで探し出すのでしょうか。図書館には特別の方法があるにしろ、並み大抵のお骨折りはなかったと存じます。しかも一度ならず二度、二度目は一度目から一ヶ月余もたつにもかかわらず、国会図書館で見つ

かったので、取り寄せてくださるとの通知をいただきました。私はとうにあきらめていた、その間も探し続けてくださったご好意、お仕事に対する誠意と熱意に、ほとほと感激いたしました。／私はただ今、病をえて町田市民病院に入院の身にて、『常民』の勉強はあきらめなければならないかと思いつめておった折、貴分館のご配慮とご尽力の結果に接し、勉強を続けなければ申し訳ないと思ひ至りました。歩みは遅いが歩み続けてまいります。今後ともご配慮、ご指導のほど懇願申し上げます。／まずは取りあえず、ごあいさつまで。草々／町田市民病院にて〇〇〇〇／町田図書館〇〇分館ご一同様／追伸療養の結果は良好にて、来る二十六日ごろ退院できそうです。他事ながら。」

インターネットなど検索手段が格段に進歩した現在では、到底考えられないような事例だが、図書館員の仕事の本質は、今も昔も変わらないのではないだろうか。

(会員)

## 町田市公共施設等管理計画の課題—多摩 26 市との比較も含めて(後編)

講師：伊藤久雄さん(認定NPO法人まちぼっと理事)

5月23日(火)に行われた伊藤久雄さんの講演報告の後編を掲載する。前号(№214)は前編として、1. 多摩26市の公共施設等管理計画の策定状況と特徴について、2. 八王子市、三鷹市、調布市、多摩市の公共施設等管理計画の内、八王子市、三鷹市までを掲載した。今号は2.の調布市、多摩市、3. 町田市公共施設等管理計画(基本計画)の特徴と課題を掲載する。

### 2. 八王子市、三鷹市、調布市、多摩市の公共施設等管理計画

#### (3) 調布市

今年3月に策定された公共施設等総合管理計画は、4章立てで資料編が三つという構成になっており、「総合管理計画における目的と目標」では、総合的かつ計画的な管理をするとして、公共施設及びインフラのマネジメントという考え方が書かれている。公共施設マネジメントでは、「公共施設の適正な配置と総量の抑制に当たっては、今後30年間の計画期間を見据えて全体数や床面積等は、抑制を図る一方で、施設の機能は市民ニーズを踏まえて現行のサービス水準を維持することを基本に、集約・複合化、多機能化、アウトソーシング等に取り組む」ということで、「市民ニーズを踏まえて現行のサービス水準を維持する」ということを明確にしている。これは、調布の特徴の一つではないか。

インフラマネジメントは、「老朽化に対応した適切な維持保全や更新のほか、維持管理・改修・更新費の縮減、負担の平準化について、民間活力の活用等を踏まえながら取り組む」ということを言っている。

「公共施設マネジメントにおける基本方針」だが、「基本方針1、最適化に向けた適正な配置と総量の抑制～施設から機能(サービス)へ」、実施方針としては、「①市民サービス提供の在り方の検討、②集約・複合化、多機能化の検討、③市民サービス機能の再編の検討、④多目的施設の検討、⑤目標値設定を見据えた適正な施設保有量の検討」、まだ「検討」という言葉がすべて付いている。

「基本方針2、適切な維持管理・運営の推進」で、実施方針として「①長寿命化とか、(中略)、⑥アウトソーシングの活用、⑦安定的な運営、安定的な運営については、民間等から賃借している土地・建物



については、相続等により施設の存続に影響を与えないように検討していく」。私は東京都の建設局に勤めていたが、建設局の施設を府中市で土地を借りて建物を作っていた時があった。ところが、その土地が相続されてしまい、もう貸さないとと言われて非常に困った経験がある。いざという時に困らないように検討していく必要がある。

基本方針3、「民間活力等の活用」だが、実施方針として「PPP(官民連携)、PFIの推進」、PPPについては、研究者によっていろいろな考え方があり、具体的にPPPとして何をやろうとしているかは重要だと思うが、調布市の場合は、まだ具体的に何をやるかということとは書かれていない。PFIについては、調布市は二つの小学校を統合して15年前に新しく調和小学校をPFI事業として作った。

今年の3月でその15年が終わったが、去年PFI事業期間が終わった後、ヒアリングに行ってきたが、先日ヒアリングした方から電話があって、今までPFI事業者として事業を行った民間会社に当面委託をする。調和小学校というのは、温水プールを併設しているところで、その温水プールは、一般の市民、地域の市民も利用できる。温水プールも15年たつて、大規模な改修が必要ということで、調布市は2,3年掛けて温水プールの大規模改修を検討していくようだが、大規模改修については、もう一度PFIでやる。大規模改修だけでなく、その後の管理もPFI事業とする方針だと聞いた。PFI事業者が学校教



育をやるわけではないが、学校の清掃とか警備について、あるいは温水プール全体と学校施設の清掃とか警備について、PFI 事業者に代行させてきた。当面、おそらく3年位は通常の委託として行って、その後また PFI 事業というようにやる方針だそうだ。

それから、「**公共施設マネジメントにおける基本方針を支える取組等**」ということで、特に人材の確保・育成を強調している。これは調布市らしい考え方だと私は思う。全国的には公共施設を支える市役所の人材といえば、公共施設は建築職、それからインフラ施設は、土木職、あるいは造園職だが、建築・土木、造園という職種の人たちは、この間の行財政改革によって非常に減っている。多摩26市を見ても、建築・土木職はゼロという市さえある。実は3・11の東日本大震災の時に、浦安市が液状化して道路だけではなく、住宅も壊れる地域が相当広範囲に出た。その時に浦安市には土木職は一人もいなかった。江戸川区には土木職がまだたくさんいたので、応援に入るといようなこともあった。

特に多摩26市の中では、旧北多摩の小さい市で技術職が非常に少ない。調布市の場合は、「専門的人材の確保・育成」を検討するということを言っている。東京では豊洲問題が今でも大きな問題だが、例えば建物の地下は、全部盛土するはずだったのが、地下空間ができていた。結論的に言えば、東京都職員の劣化が都庁全体として進んでいる。これは紛れもない事実で、これは委託をどんどん拡大して殆ど委託業者に丸投げなので、チェックできる人がいない。多摩26市は町田市も含めて、今後公共施設のマネジメントを一体誰がやるのかということが課題だと思う。

それからもう一つは、「市民との連携」で、この総合管理計画を作る際にも、「無作為抽出による市民3,000名を対象としたアンケート調査のほか」に、「パブリック・コメント手続」あるいは「市民との意見交換会等を通じて、意見を伺った。計画策定後においても引き続き、多様な市民参加手続を活用して市民と「情報共有や意見交換を行い、公共施設マネジメントに取り組む」ということを提言している。これを本当にやる気があるのかどうか課題になる。

#### (4) 多摩市

2015(平成27)年11月に「多摩市公共施設等総合管理計画」を策定したが、多摩市の特徴は、この公共施設等総合管理計画策定以前に、「**公共施設の見直し方**

**針と行動プログラム**」を策定していることだ。「多摩市公共施設等総合管理計画」の下に、まだ作られていないが、「橋梁長寿命化計画」、「道路及び道路付属物等更新計画」、「下水道長寿命化計画」、「公園長寿命化計画」を作る。今作られているのは、「資源化センター長期修繕計画」、「公共建築物保全計画」、「多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラム」だが、「多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラム」をどのように作ったかを見ると、2012(平成24)年、この時に多摩市は、「市制40周年記念事業」を行って、テーマ別討論会で、「公共施設の今後のあり方」が大きな課題となった。それ以降、「(仮称)公共施設の適正配置に関する行動計画」等々を、様々な案を作って市民説明会をしたり、討論会をしたり、骨子案については、パブリック・コメントを行い、最終案についても市民説明会を行った。

現在は去年11月に更新をしている。更新については、更新案について様々な意見交換会を施設ごとにやるという手続きをとっている。『公共施設の見直しと将来像』という政策情報誌を発行し、市議会へ提出された陳情、政策提案と審議結果というのが掲載されている。最初の公共施設の見直し方針と行動プログラムについて、市民から23件の陳情が市議会に出され、2件の政策提案が出された。それを議会で審議した結果がその政策情報誌に載せられているので、関心のある方は、ぜひ見ていただきたい。陳情23件の内、不採択が3件、あとは全部採択若しくは趣旨採択ということで、市議会が採択若しくは趣旨採択した施設については、行動プログラムの更新の中で見直しをしている。また、多摩市の庁舎は、多摩ニュータウンができる前に作られた非常に古い庁舎で、少し不便な所にあるという理由から、この行動プログラムでは、多摩センターに新しく作るということだった。しかし、時期尚早だという陳情が採択され、更新された行動プログラムでは検討となり、取り組み方針が変わっている。

多摩市の一番大きな公共施設は、多摩センター駅から坂を上がって行くところあるパルテノン多摩という施設である。かつて、この施設は東京都が作って完成したものを多摩市に移管したのだが、30年位になり、老朽化して痛みが激しいということで、大規模改修計画を「見直し方針と行動プログラム」で提起した。市の方は来年度から関わりたいということで、今年度の予算案に計上していたが、市議会の中でも様々な意見があり、

最終的にはパルテノン多摩に関わる予算については、削除した。今多摩市長としては、先ず議会としての意見をまとめてくれと議会にボールを投げている。そういう段階であり、これから町田市が施設ごとの方針に具体的に取り組んでいくという時に、相当参考になるのではないかと思う。

図書館については、どのようになっているのかというと、「本館は、多摩市の図書館ネットワーク全体を支えながら新たなニーズにも対応していくため、移転のうえ恒久的に再整備」する。「一方でより新鮮な蔵書を持つ身近な地域館の検討を行うなど、職員体制や資料面を含めた図書館サービス全体の見直しを行います」。この「図書館サービス全体の見直し」というのは、恐らく、いい方向で見直しすると私は捉えている。

### 3. 町田市の管理計画について

#### 計画の概要

「町田市公共施設等総合管理計画(基本計画)概要版」(以下「概要版」)に沿って町田市の考え方を説明したい。先ず、「計画の概要」がある。(1)目的、(2)位置づけ、(3)計画期間、町田市は40年の計画期間になっている。(4)対象施設は公共施設(箱物)と都市インフラ施設(道路、橋梁、その他の道路資産、下水道、都市公園)。ただし、水道は東京都に移管してされているため、水道施設は対象外。

[http://www.city.machida.tokyo.jp/shisei/gvousei/keiei/kokyoshisetsumanagement/20160331151421122.files/koukyousisetu\\_gaiyouban.pdf](http://www.city.machida.tokyo.jp/shisei/gvousei/keiei/kokyoshisetsumanagement/20160331151421122.files/koukyousisetu_gaiyouban.pdf)

#### 人口と財政状況の見直し

「町田市人口の推移と将来推計」があり、2055年までの推計が出されているが、これを見るとピークは2020年ということで推計している。この人口推計のもとで、公共施設の管理計画を作ることになっている。とりわけ、高齢者の構成割合が高くなるとされている。

財政は特に扶助費、それは老人に対する経費、障害者、子ども、生活保護等に係る経費のことだが、現在は介護保険制度が入ってから、介護保険特別会計に一般会計から繰り出しをしており、一般会計には扶助費ということで介護保険の繰り出し分は入っていないことがある。私は社会保障関連経費と考えており、そういう自治体が最近が増えていく。それは別として、財政もピークが人口のピークと

同じ2020年になっている。それから、財政も人口の減少ほど極端ではないが、財政規模も縮小していくと推計になっている。

#### 公共施設等の状況

施設等の数は359施設で、一番多いのは学校教育系の施設が17.8%、その次は公園施設が12.5%だが、総延床面積では、半分近くが学校教育系施設(49.0%)、2番目に多いのが産業系施設(8.1%)になっている。町田市の産業系施設とは何か、町田新産業創造センター、プラザ町田などがそれに当たる。

「建築年別の延床面積」は、築30年以上の施設が55.8%あり、老朽化が進んでいる。まだ30年以上は経っていないが、例えば町田市総合体育館は、あと3年位すると30年以上になる。町田市庁舎は最近建て替えられた。いずれにしても、築30年以上の施設は、半分以上占めており、今後これらをどうするかということが大きな課題になる。

「都市インフラ施設」については、町田市で他市と比較して多いのが橋梁、橋は203ある。例えば府中市では、多摩川と野川だが、両方の川に架かる市の橋というのはない。小平市には小さな用水はあり、それに架かる小さな橋はあるが、大きな橋は一つもない。ところが、町田市は203も橋がある。橋の老朽化については町田市の課題の一つになる。

#### 総合的かつ計画的な維持管理の必要性

(1)安全性の確保、(2)維持管理コストの不足、(3)将来を見据えた価値の創出、(4)暮らしと身近な地域拠点の確保、ということで先程の調布市の考え方も共通していると思うが、「公共施設はサービス提供の場であると同時に、地域のコミュニティ活動や交流の場でも」とか、「災害に強いまちづくりや豊かな地域社会の実現にあたっては、地域コミュニティの強化が不可欠で」と書かれているが、今までこのように取り組んできたのか少し疑問がある。

#### 公共施設の基本的な考え方

「(1)目指すべき姿」として、「経営的視点に立った施設の管理と運営」ということで、「経営的視点に立って公共施設の最適化を図る」とか、「徹底した効率化を行う」、これは今の市長の考え方を相当反映しているところではないかと思う。「施設重視から機能重視への転換による新たな価値の創出」ということ

## 浪江虔と私立南多摩農村図書館

～2017年10月1日

「私立南多摩農村図書館」という名の私立図書館が、かつて鶴川村大蔵(現町田市大蔵町)にありました。まだ鶴川が農村だった1939(昭和14)年開館し、周辺の宅地化とともに「私立鶴川図書館」と館名を変更(1968年)しつつも、1989年まで活動を続けました。

図書館をつくったのは、浪江(旧姓板谷)虔です。当会の前身である「町田市立図書館をよりよくする会」の創設者でもあります。

今回は、図書館開館の頃の資料13点を展示します。

で『サービス=建物』の考えから脱却し、公共サービスを提供する機能をいかに維持するかという考え方を前提に、市民や民間事業者などとともに、多様なアイデアと民間のノウハウを活かした効率的かつ町田市ならではの魅力的なサービスを創出していく。

2つの「目指すべき姿」を踏まえて、「(2)基本方針」として「4つの基本方針」が定められている。「施設総量の圧縮」、総床面積を圧縮する。「今後は原則、廃止を伴わない施設の新設は行わず、施設の建替えを行う際は、施設の複合化・多機能化を進める。それから、「ライフサイクルコストの縮減」、「官民連携によるサービス向上」(PPP)、町田市は「市民や民間事業者、他自治体等の多様な主体との連携により、ニーズの変化等に対応した柔軟で付加価値の高いサービス提供を行う。あるいは「これまで以上の効率化や民間のノウハウや資金の活用等により、行政だけでは提供できない、より市民満足度の高いサービスの提供を目指す。それから、「既存資源の有効活用」で、「遊休資産を有効活用する」とか、「交流や公益的サービスを担う地域資源を活用した民間の場・空間づくりを支援していく」ということを言っているが、例えば町田市はこれまでも、NPO支援ということはどうだったのか、などということも考えてしまう。

「(3)具体的な取組」の方針が描かれている。基本方針1は「施設総量の圧縮」だが、「施設の集約」として、都市核(町田駅)や副次核(鶴川駅、南町田駅、多摩境駅)に、施設を集約していく。「施設を集約するにあたっては、誰もが利用できる公共交通機関などの交通利便性にも配慮」と書かれているが、これからますます高齢化が進むときに、果たして「誰もが利用できる公共交通機関」というのが運用できるかどうか、ということが課題である。

次が「施設の複合化・多機能化」だが、「複合化や多機能化により生み出されたスペースは削減したり、他のサービスを導入することで、施設総量の削減や増加の抑制を図る」等々が述べられている。

基本方針2は「ライフサイクルコストの縮減」ということで、どのようにライフサイクルコストを縮減していくかという考え方が描かれている。「施設の長寿命化」は、なるべく長く使っていききたいということにな

る。

基本方針3は「官民連携によるサービス向上」ということで、「市民・地域連携」は、「地域の多様な主体による協力・連携」が不可欠です。公共施設の運営においても、市民・地域との積極的な連携を図り、地域のニーズによりそったサービスの向上と愛着ある地域拠点の醸成を目指します」とある。例えば、「地域拠点の醸成」となっているが、八王子市や調布市のように、具体的に拠点をどのように作っていくのか、ということについては、まだ現段階では書かれていないと思う。「地域の多様な主体」といっても、どういう主体が現に町田市に存在するのか、ということをしきりと踏まえないと、ただ絵を描いただけということになりかねないと思う。それから、「PPP/PFIの導入」でも、それによって「市民満足度の高い公共サービス提供を目指す」ということだが、「市民満足度の高い公共サービス提供」というのは、果たして絵に描かれたような、施設の屋上にレストランを作ったり、カフェを作れば「市民満足度」が上がるのか、といったようなことが、これから大いに議論をしていかなければならない課題だと思う。それから、「他自治体との連携」は、例えば相模原市などと今でも相当行われている課題だと思う。

基本方針4は「既存資源の有効活用」ということで、「人の交流や公益的サービスを創出する場づくりへの支援」は、「人の交流や公益的サービス」というこ

とが書いてあるが、これも現状がどうなのかなという分析が欠かせないと思う。

「(4)基本的な管理に関する実施方針」で、①は「点検・診断等の実施方針」、②が「耐震化の実施方針」、③が「安全確保の実施方針」となっている。

次が一番課題になるわけだが、「(5) 施設機能ごとの方向性」ということで、「機能ごとの分類」と「代表的な施設」、「主な検討の方向性」が書かれている。これについては、後程触れたいと思う。

「(6)削減の目標」ということで、維持管理費用について考え方が書かれているが、こういう考え方で、1,427 億円を目標値とするということだが、ちょっと分かりにくいかなと思う。私もよく理解できない。

### 都市インフラ施設の基本的な考え方

これは読んでいただければと思う。

### 今後の検討の進め方

これから課題になる「実行計画」だが、「実行計画」は 2018 年度からスタートするというので、従って今年度中に策定するということになる。だから、それ程時間があるわけではない。それからアンケート調査の結果が概要ということで作られている。

[https://www.city.machida.tokyo.jp/shisei/gyousei/keiei/kokyohisetsumanagement/kokyoshisetu-soan.files/tyousakekka\\_gaiyou.pdf](https://www.city.machida.tokyo.jp/shisei/gyousei/keiei/kokyohisetsumanagement/kokyoshisetu-soan.files/tyousakekka_gaiyou.pdf)

私が考える町田市の計画の特徴だが、基本計画の策定手続きで、アンケート調査を行った(市内在住の 15 歳以上、無作為抽出 3,000 人)。ただ、回答率が 43%(回答者 1,303 人)というのは低いのではないか。

基本計画の内容は、計画期間が 40 年ということで、多摩 26 市の中でも長い。計画策定は 2016 年 3 月だが、2018 年度を初年度とする実行計画を作ることになっている。

施設機能ごとの検討の方向性が出されており、これは私が見る限り、ありとあらゆる手法が示されていると思う。特に注意して頂きたいのは、一覧表(「概要版」9頁)だが、サービスの検討、検討の方向性で、「サービス内容の検証」と書かれているのは、「文化・観光施設」、「社会教育施設」、「高齢者施設」、「子育て支援施設・青少年施設」だけである。ここに私はそれなりの市長の意図がある、あるいは意図が隠されていると思う。それは「サービス内容の検証」

## 第 30 回多摩デポ講座 パネルディスカッション

### 除籍候補資料の処理を考える

—除籍と保存のジレンマを解消するために—

**パネリスト 中原千佳氏/西東京市図書館  
吉本龍司氏/(株)カーリル代表  
堀越洋一郎/多摩デポ・理事**

**コーディネーター 齊藤誠一/多摩デポ・理事**

日時：9月18日(月・祝日)

午後6時30分～9時

会場：国分寺労政会館3階 第3会議室

(JR国分寺駅南口徒歩5分)

参加費：500円(資料代) 事前申込不要  
(先着70人)

主催：NPO法人 共同保存図書館・多摩

<http://www.tamadepo.org/>

を行って、その結果どうするのかということが書かれていない。私はサービス内容を検証してその結果、例えば施設の廃止というのも視野に入ってくるのではないかと考える。したがって、特に様々な施設があって、それぞれ重要だが、とりわけ今挙げた4つ、「文化・観光施設」、「社会教育施設」、「高齢者施設」、「子育て支援施設・青少年施設」については、留意しておく必要があると思う。

それから施設機能ごとの方向性だが、「文化・観光施設」等の4つの施設については、「サービス内容の検証」が入っている。「市民活動施設」は、「地域移譲」という手法が示されており、これは「市民活動施設」も小さな集会施設から、比較的大きな施設までであると思うが、いずれにしても施設ごとに検討していく必要があるかと思う。

それで、最後に示された方針は、基本方針のところと言葉は若干一致しないところもあるが、市長サイドが何を考えているのかは、例えば「収入源の確保」等に現れているかと思う。ただ、「市民活動施設」で「収入源の確保」というのは、何なのかなと思うが、「市民活動施設」で「地域移譲」で自治会・町内会に移譲しても、有償で移譲することは考えられないと思う。無償移譲か無償貸付にするのが、他の自治体で一般的な考え方だ。「市民活動施設」で「収入源の確保」というのは何なのか、ちょっと首を傾げ



ざるを得ない。それから、「地域移譲」、「民間移譲・民営化」、「民間委託」、「ソフト化」については、「概要版」9頁の下に説明がある。「小学校・中学校」の「民間委託」と書かれているのは、これは現業関係ではないかと思うが、これだけではよく分からない。

今後の課題だが、この「概要版」の一番最後に、読むだけなら非常にいいことが書かれている。「具体的な施設の見直しの方向性を定めるにあたっては、市民等の十分な理解と協力を得て進める必要があります。今後も継続して市民や議会への十分な情報提供を行うことで現状や課題を市民等と共有し、対話や協議の場を通じて、多くの理解が得られる丁寧な合意形成を行います。計画の推進においても、市民や企業等が主体となって積極的に参画するしくみの構築を目指します」。これは言葉としては、非常にいいことが書かれているが、「今後も継続して」と書かれている。「今後も継続して」ということは、これまでもやってきたと読める。いずれにしても、「市民や議会への十分な情報提供を行うこと」とか、「対話や協議の場」、あるいは「丁寧な合意形成」というのは、とにかく必要なことなので、果たしてこれまで十分だったのかどうかも含めて、皆さんが大きな声を上げていく必要がある。私はこういう公共施設の再編だとか、複合化等々について、「丁寧な合意形

成」、「丁寧な策定手続」というのは、市民自治を実現できるかどうか、あるいは市民自治のバロメータになると考えている。

もう一つは「実行計画」だが、「実行計画」は2018年度から9年間、それ以降は10年間ということだが、「概要版」11頁にある全部の施設の実行計画をいっぺんに作るというのは無理があると思う。だから、何を重点的にまずは取り組むかということが課題だと思う。この方向性を見ただけでは、市民に説明するというのは、なかなか容易ではないと思う。従ってアンケート調査の回答率が非常に低いというのも、そういうところにも原因がある。これから市がどういう説明会を開いたり、意見交換会などを用意するのかよく分からないが、丁寧な、分かりやすい説明が求められると思う。

それから市民にこれからどうやって関心を持ってもらうかということだが、アンケート調査を見てみると、利用状況調査があるが、その中でも社会教育施設の利用者というのは、庁舎等(69%)に次いで多い(50%)。さすが町田だなと思う。逆に利用頻度の施設分類を文化施設と観光施設を一緒に「文化・観光施設」としているのは、おかしなことで、観光施設は市民がほとんど利用せず、主に観光客が利用する。それを一緒にして利用頻度を問うというのは、ちょっと町田市の見識を疑う。いずれにしても、これから市民の関心を高める工夫が求められており、特に先程挙げた4つの施設については、早急に取り組みを強化する必要があるのではないと思われる。

もう一つはアンケートのところで、問3で「問2で見直すべきでない(公共施設は維持すべき又はもっと増やすべき)を選択された方に伺います。限られた財源の中で公共施設を今までどおり維持または増やすため、今後どのようにしていくべきとお考えですか?」という設問で、一番多いのが、「他の公共サービスを削減して財源を確保する」(35%)。これは明らかに「やらせ」である。回答の選択肢は市が用意したもので、そっちがいいと○を付けた市民が一番多かった。こういうことにも、おかしなことはおかしいと声を上げていく必要があると思う。

(完/文責:手嶋孝典)

## まちだ未来の会 第5回 学習会 シンポジウム

### こんな町田に暮らしたい!

#### —市民が創る町田の未来—

日時:2017年9月30日(土)  
午後2時~4時30分  
場所:町田市民文学館2階大会議室

#### パネルディスカッション

地域団体、文化サークル、スポーツクラブ、NPO団体などでさまざまな市民活動に取り組む活動家が語り合う町田の未来

参加費:300円(資料代)

お申込み:当日、直接会場へ。

※ 内容に一部変更があるかもしれません。





## 例会 6/27 (火) 報告

・18:00～20:35 中央図書館・中集会室  
 ・7/14 (金) No214 印刷他(清水・多田・手嶋・丸岡)

出席:石井・久保・齋藤・清水・庄司・鈴木(真)・多田・手嶋・中嶋・野町・増山

### 議題

#### 1. 会報について

No215 : 巻頭言未定⇒松岡要さん、図書館協議会第19回定例会報告(山口・清水)、ある利用者からの手紙(守谷)、まちだ未来の会報告(庄司)、市民が考える町田の行財政 その3報告⇒その2の続きを掲載(手嶋)

新しい企画についての提案(鈴木(真)):図書館にまつわる本の紹介をしたい。タイトル「こんな本見つけた」、半頁(700～900字)程度。

#### 2. すずめる会のリーフレットの改訂について

鈴木(真)が暫定版(最小限の修正を加えたもの)を作成したので、当面これを使用したい。

#### 3. 今年度の世話人について

図友連 ML 転送(手嶋・増山・多田)は、確定。他は欠員のまま。「知恵の樹」編集1名、ホームページ管理2名、リーフレットの改訂1名欠員。

#### 4. 今年度の活動計画について

図書館見学会:大和市、宿泊付きで行きたいなどの意見が出た。⇒継続

その他:講演会は、まちだとしょかんまつりが大人も対象となったのに伴い、従来のものを再考。⇒継続。

#### 5. 町田市の財政分析について

市民が考える町田の行財政 その3「町田市の財政と指定管理者制度—図書館を中心に」

7月21日(金)午後6時～ 中央図書館ホール

①「町田の図書館は今—現場からの声」高松昌司さん(図書館六分会協議会)、②「町田市の財政と指定管理者制度—図書館を中心に」伊藤久雄さん(認定NPO法人まちポット理事)

#### 6. 「町田市5ヵ年計画17-21」、「町田市公共施設等総合管理計画」等について

まちだ未来の会について。6月24日(土)の報告:「知恵の樹」No215 2, 3頁参照。

#### 7. 学校図書指導員について

学校図書館充実の請願:本会議で採択された。

#### 8. 「第7回まちだとしょかんまつり」説明会について

日時:6月20日(火)午後2時～4時、内容:第6回としょかんまつり報告/実行委員会の発足に向けての話し合い、参加申し込みについて:7月末/開催時期:3月22日(木)～25日(日)/次回の集まり:8月22日(火)午後2時～/図書館が大学や国際交流関係にも参加について声を掛けている。

実行委員の選出について:齋藤・宮

#### 9. 例会記録のホームページへの掲載について

記録をホームページに掲載・保存したい。⇒継続。

#### 10. 夕涼み会の開催について(省略)

### 報告

#### 1. 町田市公共施設再編計画策定検討委員会

次回8月22日(火)午後3時～

#### 2. 第16期町田市立図書館協議会第18回定例会

図書館協議会の要望書について

①幼稚園、保育園に対する支援強化について要望。②公共施設再編計画へ対応して、図書館サービスのあり方について要望。

#### 3. 第17期町田市立図書館協議会委員の推薦について館長への申し入れ(省略)

#### 4. 団体及び個人からの報告

囑託労:6/8(木)第10回定期大会を開催した。資料費について要望を出した。

六分会協議会:6/2(金)団交(BM、文学館)

石井:学校図書館指導員研修で講師を務めた(団体貸出)。あと数回行う予定。

増山:子ども読書活動推進会議委員を8年続けたので辞めたいが、辞めるなら他の人を出すように言われた。

まちだ語り手の会:会報は2ヶ月に1回発行に変更になる(従来は月1回、9月～)。

野津田・雑木林の会:「草いろいろワークショップ～みちかな草で夏草コースターをつくらう～」を開催する。7月27日(木)午後1時30分～3時30分、中央図書館ホール

《編集後記》9月議会で鶴川図書館の存続を求める請願と市民生活に根ざした「公共施設再編計画」の策定を求める請願が出される。採択されることを!(T2)